

|       |         |
|-------|---------|
| 部 長   | 関 戸 祥 子 |
| 研究主任  | 石 野 絢 子 |
| 部 員 数 | 28名     |

## 1 研究主題

自ら学ぶ力と豊かな人間性を育てる学校図書館づくり  
～本は信頼できるともだち～

## 2 はじめに

学習指導要領の改訂に伴い、学校図書館の利用や読書活動の充実が一層重視され、読書活動が国語科の学習に結び付くよう読書に関する指導事項が位置付けられている。小学校の教科書では「本はともだち」という単元が継続して設けられ、中学校では、各単元の最後に関連する本の紹介がされている。学校図書館は、これからの新しい時代の学びに向けて、読書活動を進める「読書センター」だけではなく、「学習センター」や「情報センター」となる場所にしていく必要がある。そのためには、国語だけではなく他教科等の学習にも活用できる場所にしていきたい。また、児童生徒が本に対して関心を起こさせるような読書指導に加え、「学習センター」や「情報センター」としての授業実践を中心に据え、研究を進めていくことにした。

## 3 研究経過

全体会と学年別の部会の2部構成で会をもち、研究を進めた。学年別の部会は基本的に部員の担当学年で分け、小学校低学年部会・中学年部会・高学年部会・中学校部会の4部会を設定した。

- 5月 研究組織・研究テーマ・研究計画・実践報告時期や内容の決定
- 6月 図書購入についての情報交換
- 7月 市内の学校図書館見学
- 9月 読書ノートについての説明会
- 10月 ブックトークについての講演会
- 11月 実践報告会
- 1月 図書館見学・実践報告・年間反省アンケートの実施
- 2月 今年度の研究のまとめ

## 4 研究の概要

### (1) 全体会

学校図書館運営など全体に関わる話題を取り上げ、主に情報交換を行った。  
また、愛知県学校図書館研究大会の参加者による還元学習や外部講師を招聘したブックトーク講習会を行うなど、今後の図書館運営に生かす機会を設けた。

### (2) 学年別の部会

## ア 実践報告会

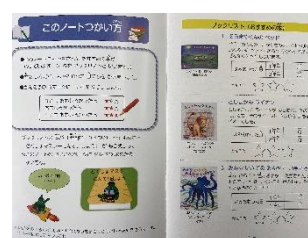
学校図書館を活用した調べ学習や、それをもとにした言語活動などの授業実践を中心に報告し合った。国語、社会、総合的な学習などさまざまな教科の実践報告があげられた。特に、美術科での授業実践は、興味深い内容であった。教科学習で使用するだけでなく、学校図書館司書と協力して、小学校低学年向けに図書室の利用の仕方や本の並び方などについてくわしく学習している例もあった。また、小中連携の一環として小学校、中学校の問題点などを情報交換し、連携できる今後の取組や学校図書館の在り方についても話し合った。

## イ 読書ノートの利用の仕方

今年度から小牧市教育振興基本計画による「小中学生にすすめるブックリストの活用」として読書ノートの配付が小学校から始まった。低学年・中学年・高学年用と分かれて配付された。図書館職員による説明があり、どのように児童に取り組ませていくかを共通理解できた。来年度は中学校でも実施されるので、小学校の取組の様子などを中学校の教員とも共有した。



3種類の読書ノート



内容について

## 5 成果と課題

これまで「自ら学ぶ力と豊かな人間性を育てる学校図書館づくり～本は信頼できるともだち～」の研究主題の元、学校図書館の資料を活用したさまざまな教科による授業実践について情報交換をし、改めて「学習センター」や「情報センター」として利用していくことの大切さを実感した。

今年度は、ブックトーク講習会を実施し、児童に新しい本との出会いを設定する方法について詳しく知ることができた。各学校において児童生徒と学校図書館を繋いでいくことの必要性を改めて感じた。また、今年から始まった読書ノートについては、各学校でどう児童に勧めていくのか、活用していくのが課題である。低学年は意欲的に参加できた一方、中・高学年の読書意欲喚起にはあまり繋がらなかった。活用法や支援の仕方を考える必要がある。これからも情報交換や実践交流を継続し、市立図書館や学校図書館司書との連携を充実させ、さらに魅力ある学校図書館づくりを進めていきたい。